

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防災対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	備蓄品整備計画修正(案)に沿って、備蓄品の整備を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	東日本大震災での課題や教訓を反映させた平成25年度末に修正した地域防災計画に基づき、減災、自助、共助、災害時要援護者に対する支援や男女共同参画の視点を取り入れた対策見直しを行う。
②①に基づく取組み結果	備蓄品整備計画修正(案)に沿って、不足している毛布、食料、仮設トイレや災害時要援護者等に必要な備蓄品の整備を進めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	防災意識の高揚を図ると共に万一の災害発生時に応急活動等が円滑に行えるようにする
②事務事業の概要	災害から市民の生命・身体及び財産を守り、災害に強いまちづくりを基本として防災体制の強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地震の多発や台風被害の大規模化また、宅地化による保水力の低下等災害発生の危険性が高くなっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	地域における防災体制が充実し、災害発生時の応急活動等が円滑に行なえるようになった。市民の防災意識が高まり、自助、共助の精神から地域において住民同士が相互に助け合い、災害の被害を少なくすることが出来た。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	総合防災訓練参加者数	819	1,105	1,163	人	業務取得
	ii	自主防災組織率	66	62	58	%	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	9,225	17,440	金額(千円)	内容		18,140	
国支出金(千円)			8,837	委託料(防災気象情報等)			
県支出金(千円)		1,424	6,271	需用費(消耗品等)			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	9,225	16,016				18,140	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	各種災害に対して迅速な対応が求められており、ハード面においても計画的な整備が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	鎌ヶ谷市地域防災計画に基づき、計画的に防災体制を強化することが求められているため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	流用・充当					
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防災行政無線管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	適切に管理運営できるよう、保守点検を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	防災行政無線等の情報伝達手段について、いつ発生するかわからない災害に備えて、適正に維持管理していく。また、市民から、放送が聞き取りづらいなどの問い合わせについては、保守点検業者と協議しスピーカーの向きなどの変更を行い、改善を図り、適切な管理運営のため保守点検を行う。
②①に基づく取組み結果	年2回、6月と1月に計画的に保守点検を実施し、老朽化した機器については交換修繕を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、防災関係機関	意図(対象をどうするのか)	市民や防災関係機関に災害時に迅速に情報伝達等が出来るようにする。
②事務事業の概要	防災行政無線は、災害時における市民への情報の伝達手段としており、災害時に適切に運用できるよう平常時から整備をするものである。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	住宅の高層化や部屋の高気密化などにより、放送が聞き取りづらいなど住民からの問い合わせがある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	地域における防災体制が充実し、災害発生時の応急活動等が円滑に行なわれるようになった。市が防災行政無線の管理運営を行うことで、防災体制の強化につながり、市民が防災行政無線を災害時の重要な情報源の一つとして認識することとなった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	防災行政無線保守点検委託料	2,473	3,030	3,030	千円	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	16,445	18,199	金額(千円)	内容	27,858		
	国支出金(千円)		9,821	使用料及び賃借料			
	県支出金(千円)						
	市債その他(千円)						
	一般財源(千円)	16,445	18,199		27,858		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	住宅の高層化や部屋の高気密化などにより、放送が聞き取りづらいなど住民からの問い合わせがある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	災害時の情報伝達は重要性を増しており、地方公共団体の果たす役割として欠かせない。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越
		H24⇒25繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成26年度への繰越額(単位:千円)				

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	防犯対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、既設防犯灯の修繕が必要となる際に、随時LED等への切替を実施していく。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	防犯灯維持管理費補助金、新設補助金の改定
②①に基づく取組み結果	防犯灯新設費の補助により、61灯の防犯灯を設置した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	○防犯灯補助事業:市内自治会等の防犯灯管理団体 ○防犯協会補助金:鎌ヶ谷市防犯協会	意図(対象をどうするのか)	○防犯灯補助事業:夜間の安全確保及び防犯活動の積極的な展開を図ることができる。 ○防犯協会補助事業:防犯協会による市域全体の防犯活動の充実を図ることができる。
②事務事業の概要	犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現のため、防犯灯補助事業や防犯協会に対する補助事業及び防犯カメラの適切な管理運用を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内の防犯灯や防犯パトロール隊の数は増加し、市内の犯罪発生件数の著しい増加は見られないが、今後も防犯対策を強化する上でも、市が積極的に関与する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	防犯灯の整備により、犯罪の起こりにくい環境が整備されると共に、市民が防犯協会と連携しながら、自主的な防犯活動が展開され防犯体制が整備された。 東中沢地区5台、東初富地区5台、道野辺中央地区5台、新鎌ヶ谷駅周辺地区2台の合計17台の防犯カメラの適正な管理運用を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	1,494	1,314	1,399	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	60,697	72,521	金額(千円)	内容	75,886		
国支出金(千円)	1,177	1,374	59,387	防犯灯維持管理費補助金	1,100		
県支出金(千円)	95	84	2,499	防犯灯新設事業費補助金			
市債その他(千円)			5,765	防犯協会補助金			
一般財源(千円)	59,425	71,063	1,691	通信運搬費	74,786		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	電気料金の値上がりに伴い防犯灯管理団体の負担が増加しており、負担軽減への対策を講じる必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	電気料金値上げへの対応や、省エネや環境に配慮した防犯灯のLED化促進が求められている。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由						
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	避難所備蓄倉庫整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続し全避難所に備蓄倉庫の整備をしていく	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	継続して、避難所に防災備蓄品の整備を進めていく。
②①に基づく取り組み結果	6箇所の備蓄倉庫の整備を行い、全避難所22箇所に備蓄倉庫を整備した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	災害における避難者、要援護者、帰宅困難者	意図(対象をどうするのか)	生活支援及び援助
②事務事業の概要	災害時における避難者及び要援護者に対する支援、援助を行うため、地域防災計画に基づき、22箇所指定している避難所に備蓄倉庫を整備し、必要な物資を備蓄する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	いつ発生するか分からない大災害に備え、早急に備蓄品の整備が求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	鎌ヶ谷高等手帳、鎌ヶ谷西高等手帳、くまがや山コミュニティーセンター、社会福祉センター、海上自衛隊下総航空基地、福太郎アリーナの6箇所に備蓄倉庫を設置したことで、市内の全避難所22箇所の備蓄倉庫整備が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	備蓄倉庫設置箇所数	11	16	22	箇所	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	51,971	83,026	金額(千円)	内容	40,899		
国支出金(千円)	35,219	12,000	36,497	災害用備品			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	16,752	71,026			40,899		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	いつ発生するか分からない大災害に備え、早急に備蓄品の整備が求められている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	大災害の発災直後における避難所等の住民への生活支援及び援助は重要である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	備蓄倉庫設置、備蓄品購入	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	備蓄倉庫設置、備蓄品購入	83,119	83,038	当初	83,119	83,026	H24からの繰越
				H24⇒25繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-81		
		平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	夜間防犯パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	232防犯対策の促進	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に防犯体制の強化に努める。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	引き続き、青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。
②①に基づく取組み結果	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施し、不審者を発見した場合は、警察へ通報した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内で発生している犯罪	意図(対象をどうするのか)	犯罪のない安全で安心なまちづくりの実現を目指すため、犯罪の多い夜間にパトロールを実施することで、犯罪件数を減少させる
②事務事業の概要	青色パトロール車2台、2人1組の計4人により市内全域のパトロールを実施する。また、不審者を発見した際には、直ちに警察へ通報する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内の犯罪発生件数の著しい増加は見られなくなっているが、安全で安心な生活環境を確保するため、今後も犯罪が起きやすい夜間のパトロールを継続していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	青色パトロール車2台により、週5日間、1日7時間のパトロールを実施した。パトロール日数 260日、警察への通報件数 24件						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	刑法犯認知件数	1,494	1,314	1,399	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	7,214	8,883	金額(千円)	内容		11,154	
国支出金(千円)			8,883	夜間防犯パトロール委託			
県支出金(千円)	7,214	8,883					
市債その他(千円)							
一般財源(千円)						11,154	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	安全で安心な生活環境を確保するため、犯罪の起きやすい夜間のパトロールを継続していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	安全で安心な生活環境を確保するため、夜間のパトロールを継続する必要がある					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	青色パトロール車2台、2人1組の計4人による市内全域のパトロール	10,844	8,907	当初	10,844	8,883	H24からの繰越
				H24⇒25繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-1,937		8,883
				平成26年度への繰越額(単位:千円)			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	井戸付耐震性貯水槽整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	2	1	11	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	安全対策課			
施策	233防災対策の強化	担当課室長	渡邊 忠明			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成25年度新規事業のため、前回評価無し	③平成26年度に取組む改革・改善内容	第四中学校に井戸付耐震性貯水槽を整備する。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	災害時に飲料水を供給する
②事務事業の概要	大規模災害発生時において、水道が断水し、市民の飲料水や生活用水等の供給が絶たれた場合に備え、生活上必要不可欠な飲料水を確保し災害に強い街をつくる。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	現在、設計委託を進めており、完了後に特別調査、設計書の作成、本工事をを行い、平成26年度末までに完了する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	南部地区に未整備の井戸付耐震性貯水槽を二か年計画で第四中学校に整備するにあたり、対象となる応急給水施設の水源確保のため地質・帯水層及び水質の調査を実施し、新規に水源用深井戸のさく井工事を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	井戸付耐震性貯水槽設置数	5	5	5	箇所	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	0	8,076	金額(千円)	内容	12,399		
国支出金(千円)			8,076	井戸付耐震性貯水槽さく井工事			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		8,076					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現在、設計委託を進めており、完了後に特別調査、設計書の作成、本工事をを行い、平成26年度末までに完了する。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	飲料水の確保は重要であり、大災害の発災直後における避難所の住民や、断水した家庭への供給を行うことができる。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	試験掘削完了、設計委託契約	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	試験掘削完了、設計委託契約	22,495	20,475	当初	8,076	H24からの繰越	
				H24⇒25繰越			
③達成状況	完了			補正	22,495	現年分	8,076
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-2,020		
				平成26年度への繰越額(単位:千円)	12,399		